



一般社団法人 札幌 YWCA
〒060-0807
札幌市北区北7条西6丁目
北海道クリスチャンセンター内
Tel & Fax: 011-723-8090
E-mail: sapporo@ywca.or.jp
振込先: ゆうちょ銀行
加盟者: 札幌 Y.W.C.A
番号: 02710-9-49613

知る力と見抜く力とを身に着けて、
あなたがたの愛がますます豊かになり、
本当に重要なことを見分けられるように
(フィリピの信徒への手紙 1 章 9 節 b、10 節 a)

子どもからの問い

森越 智子 (函館 YWCA 会員)

一昨年出版した中高生向けの拙著が、幸運にも第 62 回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書に選定された。先の戦争における加害者としての日本の姿を真正面から扱ったものだったので、全国規模の課題図書に選ばれることなど予想もしていなかった。侵略の歴史は自虐的史観だという考えが一方にあり、そうした忌まわしい過去は次世代に引き継がせないという後ろ向きの声が最近特に大きくなっていったからだ。



『生きる〜劉連仁の物語』童心社

戦争は被害者にも加害者にもなるものなのに、私たちはナチスドイツのホロコーストを詳しく知っていても、自国の加害の歴史をあまりに知らない。加害から目をそらし、歴史認識を曖昧にしたままの土壌からヘイトスピーチが生まれているのではないかとさえ思える。

戦争の真実を伝えることは、戦争を二度と繰り返したくないからだ。ヒロシマ・ナガサキを決して忘れてはならないように、過去から出発することが真に前を向くということではないだろうか。拙著に託したそうした思いを今の子どもたちがどう受け止めてくれるのか気掛かりだった。

そんな中、ある中学生の感想文が届いた。

「僕は小学生の頃はかなりの悪ガキだった。悪いことをしてしまったことはしょうがない。してしまったことをみとめてきちんとごめんなさいと謝ること、そして同じことを繰り返さないことが大切と学校の先生や両親から教わってきた。(中略)日本全体を動かしている立派な大人達が、なぜそれをしないのだろうか？僕が当時の戦争について決定権をもつ大人だったら、例えば劉連仁さんに謝り、強制労働につれてこられ亡くなったすべての人に謝りたい。」

感想文には主人公の気持ちになるため、たった一人で暗闇に身を置いてみたこと、これからの自分に何ができるのか考え、勇気をもって真実を伝えられる大人になりたいと結ばれていた。思わず胸が

熱くなった。しかし同時に、果たして私たち大人・社会はこのまっすぐな子どもの問いや思いに応えられる姿になっているだろうかと自問せざるを得ない。

新しい年が明けて、世界に嵐が起きている。核なき世界への道は一気に遠のき、ヒロシマを訪問したオバマ大統領の平和的な遺産は今や打ち壊されようとしている。

「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」。日本国憲法前文(2段落目末尾)に掲げたこの宣言は、戦争の犠牲になったすべての人たちとの約束でもある。

「平和な世界を作るのに、なぜ武器や兵器が必要なのですか」と、子どもから尋ねられた時、私たちはなんと答えるのかが今問われている気がする。



Y's Café 便り

昨年も、たくさんのクリスマスカードが届きました。眺めているだけで、心が温かくなります♪ありがとうございました。



☆フォローアップスクール 差し入れに感謝♪ 2名大学合格！



年末、旭川から“じゃがいも”を、東京から“さつまいも”を、市内の農家から“梨”の差し入れを頂きました。生徒たちは、「こんなに食べていいの？ヤッター！！」と満面の笑顔です。いつも内気で小食なHさんが「お代わりしてもいいですか？」と、じゃがいもを6個食べた時には歓声があきました(笑)。みなさんの応援の後押しもあって、2名が希望の大学に合格いたしました。本当にありがとうございます。これからも、応援をお願いいたします。

☆エンジェルボイス 12/24 月寒教会クリスマスイブ礼拝



『エンジェルボイス』は、毎週月曜日にクリスチャンセンターで英会話を学ぶ小学生と、毎週火曜日に月寒教会母子室で英会話を学ぶ幼稚園年長児～小

学生で結成されています。この度のイブ礼拝では英語で讃美歌を3曲披露しました。悪天候の中、多くの参加があり、子どもたちの歌声に拍手を送っていただきました。また、教会からお菓子やカードのプレゼントを頂きました。食事も美味しかったです。ありがとうございました。



■ルカ福音書 9章 18節以下■

直前、イエスさまは弟子たちに、その Mission を示しました。

ほらあなた方の働きを必要とする12のかご、それらはイスラエルの残されて人々がそこにいる！
イエスさまは弟子たちに、改めての Mission 使命を自覚させました。力弱い弟子たちではありませんもその弟子たちしかイエスさまの前にはいないのです。

イエスさまは祈ります。その祈りの傍らにいて、弟子たちは祈ることに気づかないのでしょうか。それとも身の前に提示された Mission におどろいていたのでしょうか。のっぴきならない事態の前で身をこわばらせていたのでしょうか。

わたしどもはイエスさまの祈りの傍らにいます。そこに平安があるからです。イエスさまが「血の汗」で祈っておられたとき「弟子たちは寝た」とありますがイエスさまの傍らに平安があるからでしょうね。

イエスさまはそのような弟子たちに向かって、心と視線を外します。人々はわたしを誰と考えていますか。弟子たちはほっとして各々言います。それなら言えます、ということでしょう。時間が経ちます。でも弟子たちの気持ちを代弁させているのです。弟子たちこそがイエスさまのことが分からないのです。でも口出しっぺがいます。「あなたこそキリストです。」(新共同訳は、「メシア」と古い、そして植民都市の人びとにとっては理解できない訳語を用います。本文は「キリスト」です。)ペトロが「キリスト」といってもその内容をほんとうに理解できていたのでしょうか。ちょうどわたしどもと同じです。ことばが分かる、ということは実は鳥肌の立つような実感をともないます。

イエスさまは戒めます。まだ誰にも言うなど。生半可に知ったように公に語る、証言するということは自分を偽ることです。取り返しがつきません。「めったなことをいうな」でしょうか。わたしどもは言ってしまうと後で帳尻を合わせるようなことをします。できるときにはいいですね。

いよいよ受難の予告です。自分の十字架を負いなさい。これは見せしめではありません。イエスさまが、十分な力をまだ蓄えていない弟子たちへの思いやりです。弟子になるということは、そういうことなんですよ、という助言です。

弟子たちは聞いていたのでしょうか。身も心もそぞろになっていたのではないのでしょうか。ルカは注目すべき言葉を記します。「日々」自分の十字架を負いなさい、です。そして「わたしについて来たい、そして途中のことは飛んでしまって、わたしのために命を失いものはそれを救う。」ひとは、自分の都合でしか人の話を聞きません。

弟子たちがこの時点で「日々」と受け止めました。わかったことはこれです。

わたしどもも、イエスさまのことばをほんとうにわかっているのでしょうか。いえ、少しわかっています。自分の理解できること、その範囲はわかっています。そしてこれからもっとイエスさまのことが分かります。時間がかかりますね。

でも、イエスさまの方は、「わからない」わたしどもをうけとめてくださっています。信仰とは、「日々」イエスさまにうけとめられているという「平安」です。ですから信仰を、自分の在り方ではなく、神ご自身がわたしどもに対して「真実」であることをいいます。その真実の証が、イエスさまを十字架におつけになったことなのです。ここにこそ神ご自身の真実と愛があることです。

☆2月の例会は21日(火)14:00～の予定です☆



せかいでいちばんつよい国

デビッド・マッキー作／なかがわちひろ訳

光村教育出版



髭をはやし 胸を張って色とりどりの紙吹雪の舞い散る
中を 気取った面持ちでひとときわ立派な軍服を着て堂々と歩きます、タッタッタ…一糸
乱れぬ兵隊たちがリズムカルにその後ろから行進する様が、軽妙にしてユーモラス、流
石風刺漫画家マッキーならではの画です。

さて、そのなんとも気取ったヒゲの隊長さんこそが、“人々を幸せにするために！”
という大義名分を疑うことなく掲げて前進する大きな国の大統領です。

むかしむかしのおはなしです。

大きな国がありました。兵隊は強く大砲もたくさん持っています。

自分たちの暮らしこそ最高だと固く信じ、“世界中の人々を幸せにしよう！”と、い
ろんな国に戦争をしに行きます、どの国の人たちも必死で戦いましたが、最後は大きな
国に負けて征服されていきました。

その中でたった一つ残った国がありました。あまりに小さい国だったので放ってお
いたのですが、一つだけ残しておくのも気持ちが悪いと、兵隊たちを連れて大統領は、
小さな国に入りました。ところがです、その小さな国には兵隊がいなかったので
す・・・あ～あ、これでは戦争ができません。しかも小さな国の人達は、兵隊さんたち
を大いに歓迎し、あっちこっちの家に泊めるのです。毎朝兵隊は集合して、家の周り
を行進しますが、やることはありません。小さな国に伝わる遊びを教えてもらい、今まで
味わったことのない変わった料理に舌鼓を鳴らし、それぞれの家々の仕事を手伝い、大
いに歌い大いに笑う日々を送ります。これはけしからん！と大統領は兵隊を国に送り
返し、精鋭部隊を小さな国に迎えます。さて、日に日にこの兵隊たちも同じようになり
ます。大統領は考えます・・・小さな国に大勢の兵隊はいらないのだ！・・・見張
りの兵隊を残し大きな国に帰りました。

ところが戻ってみると、小さな国での遊びが流行り、小さな国での歌が響き渡り、小
さな国での料理の匂いが漂っているではありませんか。

それを目の当たりにした大統領は…。そして、「歌をうたって」とせがむ息子に目を
つぶって大統領が歌った唄とは…。

この絵本の原題は「征服者」だそうで、落語のようなオチまでついています。さて、
これはむかしむかしのおはなしでしょうか？

大きな国々で不穏な空気が漂い始めた2017年の幕が開きました。

“力で人を支配することなどできません。” 子どもたちに絵本を手渡していく働き
手として『平和の喜び』を、折に触れ伝えていかなければと思うのです。

※ばらのおうち文庫は第1～第3木曜日に清田区で開催されています。[検索](#)→ばらのおうち文庫

